

調査視察等の報告書	
令和2年 2月 7日	
日進市議会議長 萩野 勝 様	
議員氏名 大橋ゆうすけ 印	
実施年月日 令和元年 7月 24日	行き先 大阪府松原市
目 的 「登下校時メール」IC タグの活用についての調査	
報告事項 ※報告事項については、別紙参照	
※別添資料 有	

調査視察地等の報告事項

大阪府松原市における「IC タグ（ミマモルメ）」の導入経緯

松原市では、安心安全の取り組みを重視しており、平成23年より安心安全の世界基準であるセーフコミュニティの取り組みを進め平成25年には、大阪で初めてとなる国際認証を取得すると共に平成30年1月14日には、学校における児童生徒の「身体及び心のけがを予防」することを目的とするインターナショナルセーフスクールの認証を取得しています。

IC タグ（ミマモルメ）の導入は、松原市の安心安全な取り組みにつながるものと考えられ、子どもに関わる犯罪の抑止や事件・事故の早期解決を目的として、平成29年4月1日より、全小学校において導入されました。

導入までの関係各所の動き

はじめに松原市教育委員会を中心として研究・検討が行われました。（2社が選定）

その結果を基に教育委員会から松原市PTA連絡会へ提案（導入する場合には、1社にまとめることが条件）を行い、その後、各学校のPTAを中心として、企業による説明会の実施を行なうなどの検討が行われました。IC タグ（ミマモルメ）の利用に関わる契約は、保護者と事業者間で行われるため、導入の最終判断は、PTAに委ねられていました。

事業者と松原市及び各学校との関わり

松原市としては、「最初の調査研究」「PTAに対する提案」と学校の門柱及び敷地内の利用や電気使用料等に関する「協定書の締結」。

学校としては、毎年1月に開催される新入生説明会の場において、チラシ等を活用した案内を行っていますが、契約については、保護者が事業者と直接やり取りをすることになるため、特に大きな負担にはならない。

導入費用について

事業者の収入源は、保護者との契約により発生する利用料（月額もしくは年額）であり、設置に関わる工事費等についても行政としての費用負担は一切発生しない。

所感

子どもたちの安心安全の向上を目的として導入されているが、「門を出た時間がわかり、迎えに行来やすくなった」「学校に行きにくい子が学校に行けているかどうかの確認を保護者できる」等の効果もあるとの事でした。行政としての費用負担がないため、日進市内の小中学校でも普及できるよう取り組んで行くことが望ましいと感じています。

政務活動事業実績報告書の概要及び成果等

大阪府松原市における「IC タグ（ミマモルメ）」の導入経緯

松原市では、安心安全の取り組みを重視しており、平成23年より安心安全の世界基準であるセーフコミュニティの取り組みを進め平成25年には、大阪で初めてとなる国際認証を取得すると共に平成30年1月14日には、学校における児童生徒の「身体及び心のけがを予防」することを目的とするインターナショナルセーフスクールの認証を取得しています。

IC タグ（ミマモルメ）の導入は、松原市の安心安全な取り組みにつながるものと考えられ、子どもに関わる犯罪の抑止や事件・事故の早期解決を目的として、平成29年4月1日より、全小学校において導入されました。

導入までの関係各所の動き

はじめに松原市教育委員会を中心として研究・検討が行われました。（2社が選定）

その結果を基に教育委員会から松原市PTA連絡会へ提案（導入する場合には、1社にまとめることが条件）を行い、その後、各学校のPTAを中心として、企業による説明会の実施を行なうなどの検討が行われました。IC タグ（ミマモルメ）の利用に関わる契約は、保護者と事業者間で行われるため、導入の最終判断は、PTAに委ねられていました。

事業者と松原市及び各学校との関わり

松原市としては、「最初の調査研究」「PTAに対する提案」と学校の門柱及び敷地内の利用や電気使用料等に関する「協定書の締結」。

学校としては、毎年1月に開催される新入生説明会の場において、チラシ等を活用した案内を行っていますが、契約については、保護者が事業者と直接やり取りをすることになるため、特に大きな負担にはならない。

導入費用について

事業者の収入源は、保護者との契約により発生する利用料（月額もしくは年額）であり、設置に関わる工事費等についても行政としての費用負担は一切発生しない。

所感

子どもたちの安心安全の向上を目的として導入されているが、「門を出た時間がわかり、迎えに行来やすくなった」「学校に行きにくい子が学校に行けているかどうかの確認を保護者できる」等の効果もあるとの事でした。行政としての費用負担がないため、日進市内の小中学校でも普及できるよう取り組んで行くことが望ましいと感じている。